

消 化 器

科目責任者 入 澤 篤 志
学年・学期 3 学年・1 学期

I. 前 文

本講義は、消化管（口腔・食道・胃・小腸・大腸・直腸・肛門）、肝臓・胆道・膵臓、腹膜等の腹腔内諸臓器における疾患の病態・診断・治療についての内容となる。本年度は、内科系・外科系双方が1講義内で合同で講義を行う統合型講義を多く組み入れた。また、本講義では「臨床推論学」を取り入れており、5つの症候に関して、臨床と基礎、内科と外科、といった多角的な視点での統合型講義も行う。

なお、先述のように、本年度は昨年まで内科と外科が別々に時間を設けて行っていた内容を、その講義テーマに応じて臓器・疾患毎に統合させた形で講義を行うため、事前学習資料を基とした授業内容に関する予習を十分に行って来なければ、当日の講義内容を理解することは難しくなる可能性がある。

II. 担当教員

教授	入 澤 篤 志	内科学（消化器）
教授	小 嶋 一 幸	外科学（上部消化管）
教授	水 島 恒 和	外科学（下部消化管）
教授	青 木 琢	外科学（肝・胆・膵）
教授	川 又 均	口腔外科学
教授	石 田 和 之	病理診断学
教授	藤 田 朋 恵	薬理学
教授	新 任 教 授	埼玉医療センター 消化器内科

III. 一般学習目標

基礎医学で習った知識を前提に、消化器臓器の構造、各疾患の病態・診断・治療について理解し、CBT,OSCE,病院実習、そして医師国家試験に対応できる十分な知識を得ることを目標とする。

IV. 学修の到達目標

- 1) 事前学習を十分に行い、効果的な受講に努める。
- 2) 一時的な知識の獲得ではなく、病院実習、医師国家試験にも対応できるように知識の保持に努める。
- 3) 臨床推論力を養う。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブラーニング
1	5	11	月	1	消化管疾患総論	内科学（消化器） 田 尻 久 雄	1
2		11	月	2	消化管の画像診断	内科学（消化器） 田 中 孝 尚	1
3		11	月	3	消化器に関連する口腔疾患, 食道良性疾患	口 腔 外 科 学 川 又 均 内科学（消化器） 入 澤 篤 志	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
4	5	11	月	4	食道腫瘍の診断と治療	内科学(消化器) 山 宮 知 外科学(上部消化管) 中 島 政 信	1
5		12	火	1	胃・十二指腸良性疾患	内科学(消化器) 牧 匠 外科学(上部消化管) 小 嶋 一 幸	1
6		12	火	2	胃・十二指腸腫瘍の診断と治療	内科学(消化器) 富 永 圭 一 外科学(上部消化管) 小 嶋 一 幸	1
7		12	火	3	炎症性腸疾患の診断と治療	内科学(消化器) 富 永 圭 一 外科学(下部消化管) 水 島 恒 和	1
8		12	火	5	肝・胆・膵の画像診断	内科学(消化器) 飯 島 誠	1
9		12	火	6	肝疾患総論・肝移植	内科学(消化器) 飯 島 誠 外科学(肝・胆・膵) 青 木 琢	1
10		13	水	1	腸閉塞・ヘルニア・肛門疾患・人工肛門管理, 等	外科学(下部消化管) 井 原 啓 佑	1
11		13	水	2	小腸・大腸腫瘍の診断と治療	内科学(消化器) 菅 谷 武 史 外科学(下部消化管) 水 島 恒 和	1
12		13	水	3	びまん性肝疾患	埼玉医療センター消化器内科 新 任 教 授	1
13		14	木	4	肝腫瘍の診断と治療	内科学(消化器) 有 阪 高 洋 外科学(肝・胆・膵) 青 木 琢	1
14		15	金	1	胆膵疾患総論	内科学(消化器) 入 澤 篤 志	1
15		15	金	2	胆道良性疾患の診断と治療	内科学(消化器) 入 澤 篤 志 外科学(肝・胆・膵) 青 木 琢	1
16		15	金	3	胆道腫瘍の診断と治療	内科学(消化器) 福 士 耕 外科学(肝・胆・膵) 青 木 琢	1
17		15	金	4	膵臓良性疾患の診断と治療	内科学(消化器) 入 澤 篤 志 外科学(肝・胆・膵) 青 木 琢	1
18		18	月	1	膵臓腫瘍の診断と治療	内科学(消化器) 山 宮 知 外科学(肝・胆・膵) 森 昭 三	1
19		18	月	2	上部消化管臨床推論(吐血・下血:薬剤性)	内科学(消化器) 菅 谷 武 史 薬 理 学 林 啓 太 朗	1
20		18	月	3	下部消化管臨床推論(下痢:炎症性)	内科学(消化器) 富 永 圭 一 病 理 診 断 学 石 田 和 之	1

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブ ラーニング
21	5	18	月	4	下部消化管臨床推論（血便：腫瘍性）	内科学（消化器） 田中孝尚 外科学（下部消化管） 蜂谷裕之	1
22		18	月	5	肝・胆・膵臨床推論（腹痛・背部痛：腫瘍性）	内科学（消化器） 山宮知 外科学（肝・胆・膵） 白木孝之	1
23		19	火	3	肝・胆・膵臨床推論（黄疸：肝性）	内科学（消化器） 眞島雄一 病理診断学 石田和之	1

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

定期試験、受講態度等を総合的に評価する。評価の割合は、定期試験95%、その他5%とする。但し、合格するには定期試験の成績が60点以上であることが必須である。なお、定期試験問題内の英語問題は「医学英語Ⅲ」の評価として集計される。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

教科書は特に指定しないが、いわゆる参考書を越えた、内科学・外科学・病理学の一般的教科書は1冊用意しておくことが望ましい。

VIII. 質問への対応方法

各授業終了後に直接対応。それ以外の場合は、教務課を通して質問を受け付ける。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	○
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験問題の解答に関する解説をもってフィードバックする。

XI. 求められる事前学習, 事後学習およびそれに必要な時間

事前資料や教科書を基に, 講義テーマについての事前学習を求める。予習時間は授業ごと30分以上は必要。

XII. コアカリ記号・番号

PS-01-04 (-20~23)

PS-02-08 (-01~-05)

PS-03-04 (-01~-08, -14) ,

CS-02-04 (-01, -04, -10, -11, -12, -13, -15~-27, -34, -35, -40~-44)